



～小中学校の実践から子どもたちの学力向上への「進路」を示す～

第3号

学びのコンパス



事例 7

小学校での実践例から……



ICT機器を活用したアクティブ・ラーニングの実践

ICT機器を活用して課題に取り組む子どもたちの姿からは、学習意欲の高まりを見ることが出来ます。その際、指導者には、予想される子どもたちの思考を基に、以下のような学習活動をコーディネートする力・互いに学び合う協働的な学習を構成する工夫が求められます。ここでは、ICT機器のうち、タブレット端末を用いた協働的な学習を全学年で展開する藤城小学校の実践を紹介します！

課題把握

時間をかけ過ぎずに、明確に。シンプルに。



自力解決

個々の子どもの学びの様子を捉えて、次の集団解決（練り上げ：子どもたちの意見を比べる・繋げる・まとめる等）の流れを考える。（プロセスの構築）

集団解決

何をどのように練り上げるのか、よりよい方法を考えて、話し合いをコーディネートする。

適応題振り返り

複数の問題を解き、理解を深める。自分の学びを見直し、改善しようとする。次の学びに生かす。

学びを振り返るノートづくり

右のような四角形の2倍の拡大図をかいてみましょう。

めあて 四角形の拡大図のかき方を考え説明しよう

自分の考え

友達への考え

友達の考え

適応題

次の四角形の辺の長さや角の大きさをあと1つだけをはかって、1/2の縮図をかきましょう。

振り返り

ふり返り

四角形はすべて2つの三角形に分けて書くのだと思いました。五角形とか六角形はどのようになるのかやってみたいです。

ICTの効果的な活用により協働的な学びを創ることが、思考力・判断力等「確かな学力」の定着に繋がります。

活用例1 6年 対称な図形

【発問】点Oが対称の中心となるように、点対称な図形を書きましょう



【めあて】点対称な図形の書き方を説明する動画をグループで作成しよう。

どのように説明したら分かりやすいかをグループで考えて、説明の原稿を作成する。



「撮影」「ナレーション」「操作」等に分かれ動画を作成することで、それぞれが主体的に関わる。

できあがった動画を全員で見直し、よりよい説明や作成方法について話し合う。



全体交流で

自分のグループと他のグループとを比べながら、それぞれの良い点をしっかりと確かめられた。

- やり方は同じだったけど、コンパスを使った方が、長さを正しく測りやすいと感じた。
- グループAの発表では、図形のどのような特徴をもとに考えているかを最初に伝えているので、分かりやすかった。

活用例2 6年 図形の拡大と縮小

【発問】学校で一番高い木の高さを測る方法を考えよう。



【めあて】木の高さを測り、どのような測り方を考えたかについて、プレゼンテーションしよう。

自分たちが話し合っ考えた方法を使って、木からの距離や角度などを測定する。



プレゼンテーションを作成するために、距離や角度を測定しながらタブレット端末を使って測定方法に関する画像を撮影する。

撮った写真に「どのように考えて測定したのか」を解説する説明をわかりやすく書き込む。



全体交流で

縮図の利用の他、画面上と実際の長さが比例することを用いるなど、多様な考えが出された。

- 私のグループは「60°」で縮図を書いて求めたが、「45°」にすると、二等辺三角形になり、木の高さと木からの距離が同じになる。だから、木の高さを求めるために縮図を書く必要がないとわかった。
- この方法を使えば、いろいろな物の高さが測れるので、またやってみようと思った。

事例 8

中学校での実践例から……

「思考ツール」活用による授業改善と「独自の生徒手帳」による学習・生活の自己管理

次期学習指導要領の改訂に向けて中央教育審議会の論議の中では、「『主体的・対話的で深い学び』を実現するために必要な授業改善の視点（アクティブ・ラーニングの視点）を教科等を超えて共有」することが重要であると述べられています。下京中学校では、キャリア教育に求められる4つの能力を、コミュニケーション能力・考える能力・行動する能力・創造する能力とし、これらを学校全体で育成するため、「思考ツール」及び「独自の生徒手帳」を活用しています！



◆思考ツールを活用して「学び方」を変えるために

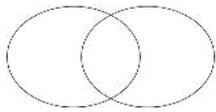
「自分の考えを班で『思考ツール』を使って整理しよう」という教員の声かけで、学習班の4人は話し合いを始めます。下京中では、様々な場面でICT機器や「思考ツール」を学習手段の一つとして活用しています。一人一人が互いに考えを述べ合い、自分と他者の意見を比較する等しながら、対話を深めていきます。



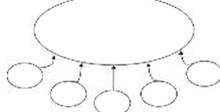
「思考ツール」とは……

思考を進めるプロセスやイメージを図として明示することにより「考えること」を助けるツールのことを言います。（以下例）

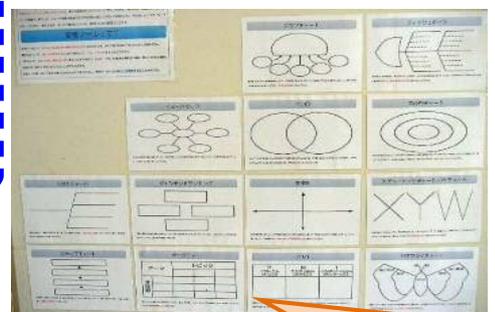
ベン図



クラゲチャート



座標軸



◆思考ツールを活用して「授業」を変えるために

- 教職員が主体的・対話的に学び場を設定
 - ⇒組織や研究方法等の工夫を実施
 - ・各教科等の横断的な学習内容・方法等の計画
 - ・教科・学年横断的な実践グループの編成
 - ・校種や学校間をまたがる授業研究
 - ・授業改善の検証（特に中間期）の徹底
- 生徒が主体的に授業を創る場面を設定
 - ⇒自ら学ぶ環境や教材の工夫を実施
 - ・思考ツールを活用した対話場面の設定
 - ・ICT機器を活用した視覚的教材の工夫

職員室に全教科の「指導計画」と「各単元等で育成すべき能力」の一覧表を掲示
⇒全教職員で共通理解

中間期の検証・改善がポイント

廊下には思考ツールの例が掲示されており、生徒会活動などでも生徒自ら活用しています。

◆生徒の自己管理能力を育むために

- 家庭学習を含む学習の計画作成と実行
- 学習や生活習慣を自己管理する独自の生徒用システム手帳を活用

生徒用システム手帳を学校独自で作成

きらめき手帳

- ・日常の学習や生活計画
- ・定期テストや読書経歴
- ・手帳コンテストも開催等



子どもたちの深い学びを促す授業改善を進めるため、各校では様々な角度から研究・実践されていると思います。今回はその「手段」の一例です。今後も各校間の情報交換等によって、実践を深めていきましょう！

★学びのコンパスに記載している写真等は、光京都イントラの学校指導課のページに記載しています★

光京都イントラ>●3 各課のページ>学校指導課>●子どもたちの学力向上をめざして・学びのコンパス

～取材にご協力いただいた学校の先生方、ありがとうございました！～



学びのコンパス 平成29年1月・第3号

《発行元》京都市教育委員会指導部学校指導課

小中一貫教育・学校運営企画担当(Tel.222-3801)



ユニークな学力向上実践をされている学校は、学校指導課までお知らせください！